

## 1. 授業の概要(ねらい)

教育学部選択必修科目(教育学系科目)である本科目は、〈教育の歴史〉という視座から、日本の社会的・文化的特色を理解することをねらいとしている。

〈教育〉は、社会や歴史によって大きく影響を受ける事象である一方、社会や歴史に働きかけて時代を切り拓く意図的な試みでもある。その時代の社会的・文化的状況、そして、その時代に生きた人々の意識や行動の背景を知るうえで、〈教育の歴史〉は有効な視座として機能する。

本科目では、とくに近現代の教育の歴史に焦点を当て、現代に至る各時期を象徴する教育の制度や実践、慣行等について取り上げることで、これまでに学んできた歴史へのさらなる肉付けを行い、受講生の歴史認識の充実化をはかっている。

## 2. 授業の到達目標

- (1)各時代における教育的事象の歴史的特質について、自分なりの補助線をひきながら理解、表現することができる。
- (2)学校教育などに関わる教育的事象の史的展開を、歴史の連環の中に位置づけなおすことができる。

## 3. 成績評価の方法および基準

授業参加度(30%)～毎回のリアクション・ペーパーの提出状況、発言・発表～、テスト(30%)、および最終課題の成績(40%)から総合的に判断する。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

片桐芳雄・木村元編著 『教育から見る日本の社会と歴史』(第2版)、2017年 八千代出版

参考文献

平田諭治編著 『日本教育史』、2019年 ミネルヴァ書房

木村元 『学校の戦後史』、2015年 岩波新書

## 5. 準備学修の内容

(1)指定のテキストを各自読み進め、不明な点、もっと知りたい箇所などをチェックしておくこと。リアクション・ペーパーや授業を活用して、積極的に担当教員に質問してほしい。

(2)近代以降の教育のようすを伝える格好の素材として、小説が挙げられる。以下の例が代表的である。安価で購入できるので読んでもらいたい。

夏目漱石『坊っちゃん』、島崎藤村『破戒』、壺井栄『二十四の瞳』、

黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』、黒井千次『春の道標』、

庄司薫『赤頭巾ちゃん気をつけて』、灰谷健次郎『兔の眼』

## 6. その他履修上の注意事項

(1)“自分にとって教育の歴史を学ぶ意味とは何か”、“自分の住む地域・出身地域にはどんな独自の教育の歴史があるのか”など、自分なりの問題意識を持って受講すること。

(2)リアクション・ペーパー、レポートなど課題の提出が頻繁に求められる。学生には主体的に参加する姿勢が求められる。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション—教育の歴史を学ぶ意味—
- 【第2回】 歴史を身近に感じるには—教育史研究のきっかけを探る—
- 【第3回】 近世の子どもと教育
- 【第4回】 日本における「学校」の成立と受容—基本事項をおさえる—
- 【第5回】 国家の規範と教職の理念
- 【第6回】 授業・カリキュラムをつくる試み(1)—教科書制度に着目して—
- 【第7回】 授業・カリキュラムをつくる試み(2)—大正新教育の展開—
- 【第8回】 生活者・労働者としての教師
- 【第9回】 戦争のための教職
- 【第10回】 戦後教育改革—基本事項をおさえる—
- 【第11回】 教師像の模索と再生・創造—敗戦と民主化への転換—
- 【第12回】 高度経済成長の中の教職
- 【第13回】 多様化の時代と教育
- 【第14回】 教師としての成長とその契機
- 【第15回】 まとめ議論と評価  
(※受講者の関心に応じて、内容を柔軟に変更することがある。)